

— 臼塚石人 —

鹿本郡鹿本町御宇田
(県立美術館出陳中)



独り、豊前国上膳郡に遁れ、南の山の峻しき嶺の曲に終りき、ここに官軍、追い尋ねてあとを失ひ、士の怒やまず、石人の手を撃ち折り、石馬の頭を打ちおとしきといふ。

※独り一磐井の君のこと。(築後国風土記)
これは、筑紫国造であった磐井が継体天皇二十一年(五二七)、任那(朝鮮半島)の失地回復に向った近江臣毛野ら六万の遠征軍を阻んだ(磐井の乱)ので、朝廷は、物部鹿火をさしむけおよそ一年半の後、これを鎮定したわけであるが、その終末の様子を写實的に記述したものである。(日本書記には、筑紫の御井郡で壮烈な戦闘の後、斬られ果てたとあり、風土記の記述と矛盾している。)

ここにみられる石人は、もと山鹿市石の臼塚古墳頂上西端に西向きに立っていたもので、明治三十七年現在地に移転されたものである。

高さ約二尺、幅九十五、厚さ四十五の阿蘇泥熔岩でつくられたこの石人は、胸に短甲をつけ、背に鞆(矢を入れるもの)を負う迫力ある武人の姿であるが、「風土記」の記述を裏付けるかのように頭部を欠損し痛ましい限りである。

なお、石人石馬の出る地域は、筑後川流域、菊池川流域及び不知火海岸にかけて分布する装飾古墳の分布とほぼ一致し、同じ文化をもった人たちの手によって作られたものであろう。(昭和四十八年五月十六日指定、現在県立美術館に出陳中)

みんなで育てよう

たくましい肥後っ子

— 五つの提言 —

話し合っていますか
きょうの出来ごと

問題行動をもつ少年の家庭環境を調査してみると、共通していることは、親と子の対話がほとんどないことである。確かにそれぞれの生活や仕事が忙しかも知れないが、せめて夜の食事の時間でも家族揃っての団らんを持ちたいものである。

子どもはほめよう はげませよう

子どもの気持ちとしては、注意されることより長所を認めてほめ、励ましてくれる方がどれだけやる気であるかわからない。大人から見れば、ほんのちっぽけな励ましのことが、子供にとって、またとない貴重な励ましであり、その後の行動を一変させるような人生の支えともなり得るものである。

○なやみを知って 愛と知恵

子どもにやる気を持たせるには今、子どもが何を考えているかを十分引き出す努力が必要であり、子どものよさを親や教師が認め、悩みの解消に愛の手をさしのべたら、がんばってみようといったやる気や自覚も高まるであろう。

だいたいようぶですか
子どもは親のまねをする

困っている人への親の優しい心づかいや、はげましの態度を見た子どもは、いつかは、親と同じ態度を兄弟に、友人に、隣人に、そしてすべての人にとるようになる。親は子どもにとって、またとない生きた手本である。

○百のこことより まずお手本

ことばで教えることより、大人の態度で示すことが、最も効果的である。身近な生活の中で、最も尊敬しているのは、父の姿であり、母

なのである。学校から帰って、まず求めるのが親の姿である。なかなづく母親である。

○善悪のけじめ 正しくきびしく

幼い子どもには、善いこと、悪いことの判断がなかなかできにくい。社会生活をやる場合、他人に迷惑をかけない、社会のルールをきちんと守るといった基本的行動様式の徹底に対しては、はっきりした態度を示すことが大切である。

やっていますか
基本のしつけ

相手の立場や気持ちを理解できるように、自分自身の生活習慣についてもきちんとしたものを持たせる必要がある。

○すんであいさつ 正しい作法

小学校の中で、オアンス運動がさかんに行われている学校がある。オッおはようございます。スゥすみません。

朝の気持ちのよいあいさつの交換、気持ちのこもったありがたうのことは等は、相手に本当に温かい気持ちをいだかせるものである。

○幼いときから がまん強さを

現代は甘えの時代だとも言われているが、学校生活でも、社会生活でも、しんぼううしてがんばるといった機会が非常に少ないように思う。その責任は、子どもの側より大人の側にあるように思う。時にはきびしくしつける態度も必要である。

つくっていますか
明るく楽しいこいの場

「家庭の日」の作文を読んでもみると、それぞれに明るい家庭づくりをめざす親子の取組みがみられ、ほのぼのとした気持ちにひたることが

できる。その作文には、共通して家庭の中に笑いの場がある。

○家族そろって感謝といたわり

子どもは、お父さんの仕事の内容をほとんど知らない。仕事について夕食の話題にのぼらせることなども大事なことはなからうか。そうしたことから、親への理解を深め、感謝の気持ちを抱くだろう。家族が無事幸福に過ごせるのは、親の努力やみんなの助け合いによることを十分考え、家族みんなが、感謝といたわりの気持ちを持つことが大切である。

○金ではつけれない心の健康

親や家族の精一杯に生きる姿は本当にすばらしいものである。お互いが休ごと木気につかり合い、励まし合うことから、心に強さを育て、やる気を起こし、生活の楽しさをもたせようと思う。

実行していますか
ともに汗して家族のふれ合い

最近、額に汗して活動することが少なくなってきたと思う。家族が体験を通して理解し合い、認め合うことの意義は大きい。

○わが家風 できるしことは子どもにも

家庭というものは、親や子が、家族の一員として仕事に責任をもち、精一杯力を合せる場であらう。

○勤労とスポーツ 親子で味わうなしとげたよろこび

額に汗して、勤労やスポーツを家族で行い、明日の活力を生み出すエネルギーを作り出したものである。

今一度、子どもを家庭の中心にすえ、本当に健全でたくましい子どもの育成はどうあるべきか、真剣に考えていきたいものである。